

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>当ホーム独自の理念は、事業運営の目的と方針として、具体的に平易な言葉でホームページに公開している。なお、その人らしく」とは、悪く解釈すれば怠惰な人は怠惰に、贅沢な人は贅沢に暮らすこととも受け取れる。概念が広過ぎて具体的意味がわからない。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>老人介護の仕事は人それぞれの死生観と密接に関わる。管理者の死生観を職員に押しつけることはできない。管理者は理念を説明することはできても、それを共有するかどうかは個々の職員が決めることである。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>「地域の中で暮らし続ける」とは、要するに「入所サービスを利用せずに在宅のままで老後を全うせよ」という意味に受け取れる。そうするかしないか、できるかできないかは本人や家族が決めることで第三者からとやかくいわれる筋合いのものではない。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>左の項目は「努める」ことではなくてあたりまえのことである。これを実践しなければ地域住民のひとりとして気持ちよく暮らせない。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>左の項目は「努める」ことではなくてあたりまえのことである。これを実践しなければ地域住民のひとりとして気持ちよく暮らせない。当事業所は事業主の自宅と一体であり、この事業を始めてからご近所との交流はむしろ深まった。</p>	
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>町内や隣近所の人からの相談には常に気軽に応じている。「町内にこのような事業所があって心強い」という声をよく聞く。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>このようなしくみを待たずに常に介護品質の向上に取り組んでいる。管理者は、自主点検・情報提供・情報公開などと重なるこんなしくみは経費と手間の無駄であり意義があるとは考えていない。</p>	<p>○</p> <p>外部評価をするならするで、評価項目を要員配置(過当たりの要員配置時間数)、決算状況(人件費率、利益率)、食事の提供形態(内製率)などに絞り、それを5段階程度に評価して簡潔に公表すべきである。そのように要望していく。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者やサービスの実際、経営の実態、外部評価を受けないと保険給付が受けられないことなどは報告しているが、会議を始めてからまだ日が浅く積極的な意見や助言が出てくる段階にはない。</p>	<p>○</p> <p>積極的かつ建設的な意見や要望・苦情をいただけるように努めていく。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>特段の用件もないのに役所に入出入りすれば担当者の仕事の邪魔になる。役所の方から働きかけがあればいつでも応じる用意はある。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修も受け支援することに備えているが、今のところ対象者がいない。</p>	
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修も受けたが、職員の情熱と献身を強調するものが多くその労働条件に言及するものは少なかった。虐待防止の要は介護員の労働条件の改善にある。せめて、職場の風通しをよくすることとサービス残業をさせないことに努めている。</p>	<p>○</p> <p>今の労働条件と研修内容ではいつどこで虐待が起こっても不思議とは思わない。「できないことはしなくていい」という研修の必要性を訴えていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者や家族から嫌がられるほど微に入り細にわたって説明し、比較・選択ができるよう他事業所の資料も提供して、理解・納得を得ることに努めている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者はその日その時の気分によって日常的に不満・苦情・文句をいっている。理のあるものは常に運営に反映させている。なお、「外部者へ表せる機会」とはどのような場をいうのか意味がわからない。当ホームは(家族の同意書なしで)だれでもいつでも出入りができる。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月の機関誌への個別の添え書き、面会時の対話、特別な場合の電話や手紙によって家族に報告している。金銭は一切預からずいったん立て替えてその領収証をつけて翌月請求しているから、金銭管理の報告はする必要がない。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>機関誌、ホームページ、請求書、領収証に常に苦情申立ての方法を紹介している。なお、「家族等が外部者へ表せる機会」とはどのような場をいうのか意味がわからない。家族はいつでもどこへでも申し立てられるはず。今まで苦情も通報も1件もない。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営者・管理者は毎月の介護会議に必ず参加している。また、常に介護の現場に入っている。従って職員はいつでも何でもいうことができる。理のある意見や提案は当然運営に反映させている。</p>	<p>○ 従前の対応だけでは他人をはばかり話しにくい。それを解決するには赤提灯がふさわしいが、下手をすればセクハラを申し立てられる世の中なので躊躇している(管理者は高齢ながら男)。代わる方策を研究していく。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>毎月の勤務表は個々人の要望を聞いた上で作成しており、作成後も要望に応じて調整している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>事業所1つの当ホームで異動の余地はない。離職防止の方策は1にも2にも職場の風通しのよさにあると心得て実践に努めている。</p>	<p>○ この業界の人手不足はいよいよ深刻で余っているのは足腰立つ老人の労働力だけである。従って、老人が老人の介護に従事して報酬を得ても、その人の年金は減らされないような制度を創設すべきである。そのように要望していく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>採用時に死生観を討論し介護手順書による座学と管理者等による実習を徹底している。その後は毎月の介護会議を内部研修の場としている。外部研修は、義務的な研修のほかに、有用と思われるもののみ参加させている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内の老人グループホームは大手法人経営のものが9割を占め、実質的な交流の機会は全くない。そこで府北部のグループホーム連絡会に参加させていただき、左に掲げるような活動を主体的に進めている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>第16項に同じ。 なお、当ホームは最終責任者(法人代表者、施設管理者)に会うのにドア1枚で済む。最終責任者が職員からの話を拒んだことはない。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>左に掲げる項目はあらゆる業種の管理職の当然の責務であって介護職場に限らない。努めていないという運営者(や経営者)はいないはずであるから評価項目に入れる意味がない。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用開始前に、必ず、本人の在所(自宅、病院他)で家族立ち会いで面接し、本人にも事前に施設を見学してもらっている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>左のとおり実践している。</p>	
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>他のサービス利用については相談者に関わっている支援専門員の判断を尊重している。関わっている支援専門員がいない場合は信頼のできる支援専門員を探すことを強く勧めている。</p>	
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>当ホームは長期契約しかできないが、利用者はいつでも契約を解除して退所できること、契約中といえども家族・知人の介助があるのならいつでも外泊・外出ができること、その場合2泊3日以上にならないと料金は安くないこと等を、丁寧に説明している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>左に掲げる項目の実践に努めているが、研修でいわれるような泰然自若・春風駘蕩とした年寄りには減多にいない。この意味で、我が身を省みて本人から学ぶことは多い。</p>	○	<p>死の避けられないことを話し合える機会をつくっていききたい。また、本人の意識が鮮明であったときの死生観を家族から聞ける機会をつくっていききたい。</p>
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>左に掲げる項目の実践に努めているが、本人が情緒不安定に陥ったときには家族に面会に来ることを求めたり自宅に連れていったりすることがあり、支援するよりは支援される場合の方が多い。</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>左に掲げる項目の実践に努めているが、家族間の長年にわたる関係は複雑微妙で、他人にはうかがい知れないことが多い。</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>年賀状の手配、電話の取り次ぎ、礼状の代筆、自宅への同伴送迎、面会に来る知人・友人の送迎、菩提寺との連絡等を実践している。ただし、例えば、墓参り等に同伴介助するような経営的余裕はない。</p>		
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>左に掲げる項目の実践に努めているが、長年にわたって形成された性格は今さら矯正しがたい。人には相性もあり仲良しと不仲が出てくるのは避けたいが、孤立とまでいえる人はまだない。</p>	○	<p>孤立しがちになる人への目配りはするが、その人だけにおもねりへつらうことにならないよう注意する。</p>
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>例えば、利用者を同伴しての入院見舞い、葬儀への参列、遺体の引き取り、葬儀会場の提供、郵便物の転送などを実践している。なお、利用者が逝去した場合はこれを全員に通告している。秘匿する必要はないと考えている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>状況に応じて一人ひとりにあった言葉がけに努めている。食事拒否、入浴拒否、排泄介助拒否、外出拒否などの場合は、当座はそのとおりにし待てる限りは待つこととしている。</p>	
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>家族からの情報や利用者との会話の中でわかったことは個人別介護日誌に記載して情報を共有している。ただし、この日誌の開示は厳しく制限している。家族であってもその代表(入所契約の保証人)以外には開示しない。</p>	
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>毎朝、顔貌観察に始まって一人ひとりの身体状況と気分の掌握に努め、必ず申し送ってその日の心身の状況に応じた介護に努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>一人ひとりの性格と身体状況を踏まえて、当面の目標と長期目標を盛り込んだ介護計画原案を作成し、本人・家族・職員等に説明し、意見を聞き、内部で討議し、修正して、本人・家族に同意を求め、署名又は捺印を得て、介護計画とし、居室に掲示している。</p>	
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>前項の介護計画は毎月の職員会議で点検し、必要に応じて修正し、本人と家族に説明し、意見を聞き、内部討議を経て再修正し、同意と署名又は捺印を得て、全職員に周知し、居室に掲示している。</p>	
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護記録は日別連記式のもの和个人別時系列のもの2種類があり、他に職員間連絡帳、受診日誌などがある。これらは全て介護計画の見直しに活用している。</p>	
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>老人グループホームにいわゆる「多機能性」があるとは思わないが柔軟性はある。それを生かした介護を心がけている。つまり、介護員は規則や前例にとらわれる必要がない。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>左のうち警察を除いて常々多大の協力を得ている。警察には、幸いにも、今のところ協力を求める必要がない。</p>	
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>全額自己負担以外に、他のサービスを利用できる制度にはなっていない。よって左のような支援をする余地はない。</p>	<p>○</p> <p>せめて2割負担ぐらいで、日帰り介護(デイサービス)を利用できるような制度の創設を要望していく。また、同業の他のグループホームから利用者の来所を受け入れたことがあり、今後相互訪問の形で交流を深めていく。</p>
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>今のところ、運営推進会議以外に、地域包括支援センターと協働するような場面はない。</p>	<p>○</p> <p>認定更新で自立又は要支援とされることがあり得るので、その場合には早速地域包括支援センターに協力を求める。</p>
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>内科・歯科は当ホーム協力医院の医師がかかりつけ医である。内科・歯科以外の診療科は当ホーム協力病院及び近所の医院の医師がかかりつけ医である。入所時にこのことの納得を得て、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>○</p> <p>本人や家族の希望があれば入所前のかかりつけ医が往診できるような制度の創設を要望していく。</p>
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>左のとおり実践している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	左のとおり実践している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	左のとおり実践している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	左のとおり実践している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	左のとおり実践している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	左のとおり実践している。	○	個人情報保護の趣旨を正確に理解できず、これを盾に情報の交換に応じないところがある。 この姿勢こそ施設の閉鎖性と密室性、ひいては老人虐待を招く元である。行政の積極的な啓発を要望していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	左のとおり実践している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	左のとおり実践することに努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	左のとおり実践することに努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>左のとおりに実践することに努めている。ただし、本人の望む理美容店へ同伴介助するような経営的余裕はない。介助なしに行ける人はいない。</p>	
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>左のとおり実践している。</p>	
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>1回の食事は全員同一の献立となるが、それを適宜変えることで個人の好みに応じている。おやつについても同様である。酒は要望があれば出している。タバコを吸う人はいないがあれば喫煙所で吸ってもらおう。</p>	
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄表の記載に独特の記号を考案し、時間のほかに排泄先(便器、携帯便器、おむつ、その他)、便尿の別、量の多寡等が一目でわかるように工夫し、定時及び気配でトイレ誘導している。</p>	
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>左のとおり実践する経営的余裕はない。例えば、夜間帯入浴を希望されても介助する職員を配置できない。介助なしに入浴できる人はいない。なお、24時間循環式の浴槽は不衛生なので設置する気はない。</p>	
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>左のとおり実践している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>左の実践に努めているが不十分である。ちぎり絵の共同制作を活用している。なお、毎日、毎日、時間帯毎にその人毎に、それぞれの望む「気晴らし」に応じられるような経営的余裕はない。</p>	<p>〇 家族・知人等と一緒に過ごせる時間の拡大、自主的な奉仕活動者の募集に努める。</p>
60	<p>〇お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>日常の個人的な出費は全て立て替えて翌月請求している。買い物のときには立替金を本人に渡し、本人が支払い、お釣りは本人の管理としている(できる人のみ)。</p>	
61	<p>〇日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>「一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かける」ような経営的余裕はない。介助なしに出かけられる人はいない。月1回以上の共同外出と外食、毎朝のグループ毎の散歩、時には夕方の散歩、庭での日光浴・草引き・園芸・団欒を実践している。</p>	
62	<p>〇普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>「一人ひとりが行ってみたいところへ個別に出かける」ような経営的余裕はない。介助なしに行ける人はいない。「他の利用者や家族とともに、」なら行事の一環としてしばしば行っている。なお、情緒不安定の時には個別に個別のところへ行くことはある。</p>	
63	<p>〇電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>左のとおり実践している。</p>	
64	<p>〇家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>左のとおり実践している。 知人・友人の面会に家族の同意書を求めるようなことはしていない。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	左のとおり実践している。	
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	左のとおり実践している。	
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	当ホームは2階建て1ユニットであるので、階段の降り口に昼間は安全ベルト、夜間は見通しのきくシャッターを使用している。また、居間や台所、階段には凸面反射鏡を設置している。なお、利用者が1人でも2階にいるときには昼間でもシャッターを使用する。	○ 昼間の安全ベルトに不安がある。簡単にぐり抜けられる。呼び出し鈴は設置しているがわかる人が少ない。転落事故の防止に最大限の努力を払っていく。
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	左のとおり実践している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	左のとおり実践している。しかし、事故をゼロにすることはだれにも不可能であるから起こった時の対応がまた重要である。当ホームでは夜勤者1人に宿直者2人を配置している。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	実践に努めているが不十分である。	○	交代で研修に参加させ、定期的に訓練することに努める。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	左のとおり実践している。散歩の時、近所の人には必ずこちらから挨拶している。ご近所から野菜、花などのもらいものが多いので、お彼岸などにはみんなでつくったおはぎをお礼に配っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	左のとおり実践している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	左のとおり実践している。	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	左のとおり実践している。 配薬箱への配薬は担当を定め、服薬は医師の指示に従ってその都度1人づつ手渡し、服用を確認して記録にとどめている。	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	左のとおり実践している。	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	左のとおり実践している。	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	左のとおり実践している。	
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	左のとおり実践している。	
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	左のとおり実践している。 食材は毎週生協から一括購入、不足分は随時購入、配食サービスは一切利用せずその場で調理したものをその場で出し、食べ残しは全量廃棄している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(〇印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>敷地の出入り口は3ヶ所のうち階段のない1ヶ所を常に開放、建物の出入り口は昼間の夏場は3ヶ所の全てを開放している。出入りはだれでもいつでも自由である。ただし、夜間は全て施錠。</p>	
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>左のとおり実践している。</p>	
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>左のとおり実践している。</p>	
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>左のとおり実践している。</p>	
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>左のとおり実践している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	左のとおり実践している。	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	左のとおり実践している。	
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	左のとおり実践している。	

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)